

# 刀根康尚の一次文献、二次文献、 作品リスト

馬場省吾

## 1. はじめに

本研究ノートでは、音楽家・刀根康尚（とね やすなお、1935-）の1960年～2015年までの一次文献、二次文献、作品の一覧リストを提示する。本稿に記載されているリストは全て、筆者が執筆した修士論文『刀根康尚の音楽活動について——1960年代からの音楽観の形成と発展の解釈および位置付け——』のための研究過程で作成された。

刀根康尚は1960年～1961年に集団即興演奏を行い音楽活動を開始し、その後、1972年に渡米し、以来アメリカ在住の音楽家である。刀根の音楽活動については、これまでの批評および研究では、美術家グループ「ハイレッド・センター」<sup>1)</sup>との関わりなど前衛美術の文脈、あるいはアメリカにおいてデジタル・サウンドを用いたライブ・パフォーマンス、CD作品の発表について、グリッチやノイズ・ミュージックの先駆者として語られることが多かった。しかしその活動の全貌についての記録ははまだ作成されたことがなく<sup>2)</sup>、通史的に刀根の音楽活動を研究することが難しい状態であった。また、刀根は1960年～72年にかけて数々の雑誌で批評を執筆しているが、それらの量と内容についてはまとまった情報はなかった。

そのため筆者は自身の研究の開始時より、一次文献と二次文献に分けて、調査とリスト化の作業を行った。一次文献は、刀根が執筆した文章、参加している座談会、刀根へのインタビューを含む。二次文献は、他者による

ライブ／展覧会／CDのレビュー，批評，研究を含む。また，それらに記載された情報をもとに，刀根が制作した作品を時系列でリスト化した。以下ではそれらを「一次文献リスト」，「二次文献リスト」，「作品リスト」と呼称する。

筆者が作成したこれら3つのリストは，筆者の研究のためのみならず，刀根や刀根に関連した事柄を対象とする今後の研究のために，研究ノートとして公表することとした。

## 2. 情報収集とリスト作成の方法

「一次文献リスト」は，刀根の主著『現代芸術の位相 芸術は思想たりうるか』（刀根1970a，以下、『現代芸術の位相』と記述）に記載された情報と，CiNii，国会図書館OPAC，WorldCat，美術図書館横断検索，またGoogleで「刀根康尚」および「Yasunao Tone」を検索し，刀根が執筆した先の書籍と雑誌の名称や号数，リリースしたCDの情報を整理した。ただし，『現代芸術の位相』に記された雑誌の情報が前述のデータベースで全ては検索できないし，そもそも『現代芸術の位相』には，刀根が記述した文章が網羅して収録されていないことがわかった。そのため，『現代芸術の位相』に収録され，また本人が「記述している」と発言した雑誌である『音楽芸術』，『音楽の友』，『現代芸術』，『写真映像』，『デザイン』，『デザイン批評』，『美術手帖』，『SAC Journal』，『SD』については，1960年から1972年までの目次を，目視で確認して刀根の執筆記事があるかを調査した。ただし，国会図書館に全ての蔵書が無い『マイウェイ』は，全ては確認できていない。『日本読書新聞』については，マイクロフィルムによる蔵書が膨大すぎたため，『現代芸術の位相』に掲載されているもののみを調査した。『SAC Journal』については慶応義塾大学アート・センターのみが全巻を所蔵しているため，同センターにて調査を行った。また公演パンフレットやポスターに書かれた文章も，上記データベースで検索にヒットしたものは可能な限り収集した。英語文献についてはCiNii，WorldCat，Googleでの検索でヒットしたものは全て収集しているが，それ以外に文献が存在するかどうかは今のところわからない。つまりこのリストは，必ずしも網羅的なものではない。

「二次文献リスト」は、前述したCiNi等で検索した情報と、Errant Bodies Press 2007に記載された情報をもとに、入手できるかぎりの雑誌・書籍の内容を調べ、刀根への言及の有無を調査した。また、刀根康尚氏本人にもメールで連絡を取り、情報を教示頂いた。二次文献については、データベースでは内容の検索まで行えないため、Errant Bodies Press 2007に記載されている文献以外は、筆者が見つけた限りであり、網羅的ではないことを断っておく。

「作品リスト」は、藤井2001と川崎2006にまとめられたリストをベースに作成された。ただしそれらは2000年までの作品リストがほとんどであり、また、藤井2001は作品タイトルが全て英語表記で記載されていたため、日本語表記の作品タイトルが不明なものも多かった。そのため、それらと「一次文献リスト」、「二次文献リスト」に記載された情報を照らし合わせながら、主に2001年以降の作品と、日本語表記の作品タイトルの追加を行った。

### 3. 一次文献リスト

以下に、「一次文献リスト」を掲載する。

「一次文献リスト」では、「単著」と、「共著、座談会、インタビュー」に分け、それぞれ和文・英文に分けている。尚、「共著、座談会、インタビュー」は利便性を重視し、共著者順ではなく、時系列で並べている。

#### 3.1. 単著

[和文]

刀根康尚1960「オートマティズムとしての即興音楽について」『20世紀舞踊』, 5号:

15-16, 20世紀舞踊の会。(再掲: “On Improvised Music as Automatism.” post, Web. <http://post.at.moma.org/sources/3/publications/73>. Accessed 2 Dec. 2015.)

---. 1961「反音楽の方へ」『グループ音楽1』[パンフレット], 2-3, 草月アートセンター。

---. 1963「N・ディレクション様 あるいはスイートとはなにか」『Sweet16』[パンフレット], 5, 草月アートセンター。

- . 1963 「New Direction 第2回演奏会、又は図形楽譜への反省」『音楽芸術』、21巻9号：54-55、音楽之友社。
- . 1963 「New Direction 第3回演奏会」『音楽芸術』、21巻12号：56-57、音楽之友社。
- . 1963 「CRAPPING PIECE」『形象』、8号：27、形象社。
- . 1964 「New Direction 第四回演奏会 ニュー・ディレクションは可能か」『音楽芸術』、22巻2号：54-55、音楽之友社。
- . 1964 「J・ケージとニュー・ディレクション——現代音楽をめぐる状況——」『SAC Journal』、35号：頁無記載、草月アートセンター。
- . 1964 「刀根康尚賞」『音楽芸術』、22巻10号：4、音楽之友社。
- . 1964 「ハイ・グループあるいは幻影の時代のグループ」『新婦人』、12月増刊号：103-104、文化実業社。（再掲：2014『高松次郎を読む』、真武真喜子、神山亮子、他編、41-45、水声社。）
- . 1965 「ジョン・ケージのこと」『現代美術』、1号：50-51、サン・プロダクション。
- . 1965 「現象としての絵画 ジャスパー・ジョーンズをめぐって、画家である僕の友人たちに」『現代美術』、6号：64-77、サン・プロダクション。
- . 1965 「Making of fluxus」『現代美術』、7号：58-60、サン・プロダクション。
- . 1966 「絵画のイメージへの復帰 『今日の自画像』展」『現代美術』、9号：49-51、サン・プロダクション。
- . 1967 「五線譜からの脱出」『芸術生活』、1967年5月号：154-157、芸術生活社。
- . 1967 「芸術の地殻変動——EXPOからヒッピーまで」『美術手帖』、1967年11月号：98-109、美術出版社。
- . 1968 「エレクトロニック時代の芸術 コンピューター・アート 芸術とテクノロジーとの新しい結合」『美術手帖』、1968年1月号：90-91、美術出版社。
- . 1968 「アメリカン・ドリーム of 墓碑銘 〈マリリン・モンロー頌〉展によせて」『美術手帖』、1968年3月号：142-145、美術出版社。（再掲：「アメリカン・ドリーム of 墓碑銘 = ポップ・アート断章」刀根1970a, 150-156。）
- . 1968 「『変わった？何が？』シンポジウム『何かいってくれ、いま、さがす』にみる新しいコミュニケーションへの試み」『美術手帖』、1968年6月号：20-21、美術出版社。

- 1968 「環境芸術への志向 ハプニングからインター・メディアへ」『映画評論』、6月号：80-83、新映画。(再掲：刀根1970a, 111-118。)
- 1968 「大衆と芸術の接点」『美術手帖』、1968年12月号：32-33、美術出版社。
- 1969 「インターメディア・アート・フェスティバル ステートメント」『インターメディア・アート・フェスティバル』[ポスター]、草月アートセンター。
- 1969 「平均化望まれる自動車デザイン」『マイウェイ』、1969年1月号：292-293、学習研究社。(再掲：「自動車デザインの平均化は欠点ではない」刀根1970a, 204-208。)
- 1969 「芸術の環境化とは何か——アンディ・ワーホールが開示した領域」『デザイン批評』、8号：26-32、風土社。(再掲：「芸術の環境化とは何か」刀根1970a, 79-91。)
- 1969 「パリ・モードの象徴的衰退」『マイウェイ』、2月号：320-321、学習研究社。
- 1969 「美学的前衛と環境的意識 二つのインターメディアフェスティバル」『日本読書新聞』、1969年2月24日。(再掲：刀根1970a, 238-242。)
- 1969 「エクспанデッド・シネマ入門」『美術手帖』、1969年4月号：152-153、美術出版社。
- 1969 「近代の崩壊」『SD』、56号：107-113、鹿島研究所出版会。(再掲：「非芸術化する芸術=芸術における近代の崩壊」刀根1970a, 13-29。)
- 1969 「ケージと日本の水車」『SD』、57号：115-119、鹿島研究所出版会。(再掲：「不確定性音楽からハプニングへ=ジョン・ケージ論」刀根1970a, 92-110。)
- 1969 「グラフィックデザインは可能か」『デザイン』、124号：37-40、美術出版社。(再掲：「グラフィック・コミュニケーションを可能にするものとは何か——ポスター論」刀根1970a, 131-142。)
- 1969 「デザインの蘇生のためにデザインの思想的解体を！！」『デザイン』、128号：14-25、美術出版社。(再掲：「モダン・デザインの解体」刀根1970a, 162-183。)
- 1970a 『現代芸術の位相——芸術は思想たりうるか』、田畑書店。
- 1970 「序にかえて」刀根1970a, 1-6。

- . 1970 「ポスター・ブームを斬る」刀根1970a, 201-204。
- . 1970 『『千円札裁判』と印刷の幻想性』刀根1970a, 208-211。
- . 1970 「青山デザイン専門学校の"造反"」刀根1970a, 212-215。
- . 1970 「あとがき」刀根1970a, 253-257。
- . 1970 「内なる芸術の価値基盤正せ」『美術手帖』, 1970年1月号:142-143, 美術出版社。
- . 1970 「インテリア ステーション'70」『デザイン』, 130号:87, 美術出版社。(再掲:刀根1970a, 216-219。)
- . 1970 「インテリア 伝統と前衛」『デザイン』, 131号:86-87, 美術出版社。(再掲:刀根1970a, 219-223。)
- . 1970 「身体・知覚・表現 制度としての芸術と〈仕草〉としての芸術」『フィルム』, 5号:124-129, フィルムアート社。(再掲:「制度としての芸術と〈仕草〉としての芸術=表現を廃棄しうるか」刀根1970a, 30-46。)
- . 1970 『『沈黙』の真の意味を解明 書評 滝口修造『画家の沈黙の部分』』『美術手帖』, 1970年3月号:200-201, 美術出版社。(再掲:「表現への反省——『表現』と『沈黙』について」刀根1970a, 71-76。)
- . 1970 「恣意的な表現 いまや制度としてのみ存在する記号的実在と化した現代音楽」『日本読書新聞』, 1970年4月13日。(再掲:「音楽をいかに問うか」刀根1970a, 224-227。)
- . 1970 「木村恒久——“イメージ公害”にたち向かう」『美術手帖』, 1970年4月号:56-61, 美術出版社。(再掲:「木村恒久論——グラフィックデザインにおける〈身振り〉と〈記号〉について」刀根1970a, 142-150。)
- . 1970 「音楽と言語——記述された音楽と演奏された絵画との間」『デザイン批評』, 11号:60-68, 風土社。(再掲:「イヴェント=記述された音楽と演奏された絵画との間」刀根1970a, 47-64。)
- . 1970 「全領域を包む作品 近代的音楽観を超えて」『日本読書新聞』, 1970年5月18日。(再掲:『『君が代』とは何か』刀根1970a, 228-231。)
- . 1970 「もうひとつの〈本〉について——〈本〉を〈読むという制度〉への問いかけ」『SD』, 67号:90-91, 鹿島研究所出版会。(再掲:刀根1970a, 156-161。)
- . 1970 「EXPO'70ペプシ館」『デザイン』, 133号:34, 美術出版社。

- 1970 「〈写真を見る〉 ことについて」『写真映像』, 5号:88-90, 写真評論社。(再掲:「表現への反省——〈写真を見る〉 ことについて」刀根1970a, 64-71。)
- 1970 「邦千谷——日常的な, あまりに日常的な」『美術手帖』, 1970年6月号:90-93, 美術出版社。(再掲「ハプニングとしての舞踊——邦千谷の舞踊について」刀根1970a, 118-124。)
- 1970 「写真を問いなおす志向」『SD』, 68号:114, 鹿島研究所出版会。
- 1970 「タージ・マハル旅客団と永久音楽」『映画評論』, 1970年6月号:79-81, 新映画。(再掲「演奏におけるハプニング——タージ・マハル旅行団と永久音楽」刀根1970a, 124-127。)
- 1970 「環境の共同性領域 ニューロックにみる演奏行為」『日本読書新聞』, 1970年7月6日。(再掲:「ニューロックを考える」刀根1970a, 231-235。)
- 1970 「デザイン・アスペクト 展覧会 第10回東京ビエンナーレ」『デザイン』, 135号:17, 美術出版社。
- 1970 「想像力のなかに 虚構化された時間の体験」『日本読書新聞』, 1970年8月10日。(再掲:「映画音楽について」刀根1970a, 235-237。)
- 1970 「何故赤瀬川原平か?」『SD』, 70号:44-46, 鹿島研究所出版会。(再掲:刀根1970a, 243-251。)
- 1970 「グラフィズムへの視点——デザインという〈被覆(サーフェイス)〉について」『デザイン』, 137号:21-28, 美術出版社。(再掲:「グラフィズムの視角——相互主観性としてのデザイン」刀根1970a, 184-198。)
- 1970 「言葉をオブジェに蘇生 赤瀬川原平『オブジェを持った無産者』」『美術手帖』, 1970年9月号:178-179, 美術出版社。
- 1970 「デザイン・アスペクト 書評 風刺の芸術」『デザイン』, 139号:13, 美術出版社。
- 1970 「ABAB」『デザイン』, 140号:21-28, 美術出版社。
- 1971 「小杉武久 タージ・マハル旅行団」『美術手帖』, 1971年1月号:66-67, 美術出版社。
- 1971 「芸術と環境に関するコラージュ」『SD』, 75号:43-46, 鹿島研究所出版会。
- 1971 「現代音楽の中の即興演奏」『音楽の友』, 29巻2号:114-117, 音楽之友社。
- 1971 「遊戯としての写真——J.H.Lartigue『Diary of a century』」『写真映像』, 9号:

195-197, 写真評論社。

- . 1971 「やはり一面的なシンボル論 書評 S・K・ランガー『感情と形式』『美術手帖』, 1971年7月号: 194-195, 美術出版社。
- . 1971 「福岡相互銀行東京支店ファサード」『デザイン』, 149号: 123, 美術出版社。
- . 1971 「アウラ——芸術の外傷体験」『美術手帖』, 1971年9月号: 56-63, 美術出版社。
- . 1971 「百花斉放・六〇年代初期」『美術手帖』, 1971年10月号: 47-74, 美術出版社。
- . 1971 「デザインの前形態 (フォア・ゲシュタルト)」『デザイン』, 151号: 17-18, 美術出版社。
- . 1972 「相補的美術論 K.クラーク《ザ・ヌード》」『SD』, 88号: 110, 鹿島研究所出版会。
- . 1972 「遊戯的な空間——時間のない場所への旅行 (子供と遊びと遊びの場を考える-2-)」『SD』, 90号: 86-90, 鹿島研究所出版会。
- . 1979 「タイム・トラヴェル・イン・ジャパン」『美術手帖』, 1979年4月号: 10-11, 美術出版社。
- . 1981 「風倉匠論 風を喰って走る風船」『機關』, 12号: 43-51, 海鳥社。
- . 1981 「スチュアート・シャーマンのパフォーマンス」『イメージフォーラム』, 10号: 19-22, ダゲレオ出版。
- . 1986 「ニューヨークの実験音楽」『すばる』, 8巻1号: 164-173, 集英社。
- . 1986 「芸術の助成金とは, 芸術および観衆の立場から提言されるべき問題である」『イメージフォーラム』, 71号: 8-13, ダゲレオ出版。
- . 1995 「千円札裁判について」『赤瀬川原平の冒険 脳内リゾート開発大作戦』 [カタログ], 名古屋市美術館編, 110, 「赤瀬川原平の冒険」実行委員会。
- . 2001 「非方法としてのサウンド・アート」『方法』12号, 「方法」, ウェブ。  
<http://aloalo.co.jp/nakazawa/houhou/haisinsi/20011231hh012.html> (最終閲覧日: 2015年11月24日)。
- . 2001 「〈Molecular Music〉 (1982-85)」『音楽の実験 アメリカと日本』 [パンフレット], 愛知県情報文化センター。
- . 2001 「ノイズ/寄生」『横浜トリエンナーレ2001』 [カタログ], 真壁佳織,

横浜トリエンナーレ事務局, 他編, 334-337, 横浜トリエンナーレ組織委員会。

- . 2001 「Geography and Music (1979) 《この曲の録音について》」『yasunao tone』, 藤井昭子編, 頁無記載, 愛知芸術文化センター企画事業実行委員会。
- . 2011 「Musica Simulacraのためのノート」[ライナーノート]『Musica Simulacra』, ATAK, ATAK016, CD。
- . 2013 「直接行動とは何であったか。」『ハイレッド・センター: 「直接行動の軌跡」』[カタログ], 「ハイレッド・センター」展実行委員会編, 16-17, 「ハイレッド・センター」展実行委員会。

#### [英文]

- Tone, Yasunao. 1991 “Trio for a Flute Player and Lyrictron.” *Upper Air Observation*. Lovely Music. LCD 3031, CD. Liner notes. Rpt. in “Album Notes.” *Lovely Music*, Web. <http://www.lovely.com/albumnotes/notes3031.html>. Accessed 24 Dec. 2015.
- . 1993 *Musica Iconologos*. Lovely Music. LCD 3041, CD. Liner notes. Rpt. in “Album Notes.” *Lovely Music*, Web. <http://www.lovely.com/albumnotes/notes3041.html>. Accessed 2 Dec. 2015.
- . 1997 *Solo for Wounded CD*. Tzadik. TZ 7212, CD. Liner notes.
- . 1997 “Geography and Music for Amplified String Music and Text.” *Conjunctions*. Vol.28: 271-277.
- . 2003 *Yasunao Tone*. Asphodel. ASPH2011, CD. Liner notes.
- . 2003 “John Cage and Recording.” *Leonardo Music Journal*. Vol.13: 11-15. (2001 「ジョン・ケージとレコード」, 柿沼敏江訳, 『Inter Communication』, 35号: 116-125, NTT出版。)
- . 2004 “Imperfection Theorem of Silence.” In *A Call for Silence*, ed. Nicolas Collins, 20. sonic arts network. Rpt. in *A Call For Silence*. Nicolas Collins, Web. <http://www.nicolascollins.com/acallforsilencetracks.htm>. Accessed 2 Dec. 2015.
- . 2007 “The origin of the “Wounded man`yo-shu” pieces.” In *The Cambridge Companion to Electronic Music*, eds. Nick Collins, and Julio d’Escriván, 73-74. Cambridge University Press.
- . 2007 “27 YASUNAO TONE.” *Tomii* 2007, 173.
- . 2011 Liner Notes. *MP3 Deviations #6+7*. Edition Mego. EMEGO 125, CD. Liner notes.

Rpt. in “eMEGO 125 / Yasunao Tone MP3 Deviations #6+7.” *Edition Mego*, Web.  
<http://editionsmego.com/release/eMEGO-125>. Accessed 2 Dec. 2015.

---. 2013 “Fill Event (2001).” In *do it: the compendium*, ed. Hans Ulrich Obrist, 374.  
Distributed Art Publisher.

### 3.2. 共著, 座談会, インタビュー

#### [和文]

刀根康尚, 木村恒久1968 「IMAGE 情報見聞録」『デザイン』, 113号: 65-80, 美術出版社。

---. 1968 「IMAGE 肖像と神話」『デザイン』, 115号: 63-94, 美術出版社。

刀根康尚, 愛甲健児, 石崎浩一郎, 他1969 「明日の芸術を理解するために」『美術手帖』, 1969年1月号: 71-113, 美術出版社。

刀根康尚, 石子順造, 杉浦康平, 他1970 「デザイン教育の可能性」『デザイン』, 130号: 21-36, 美術出版社。

刀根康尚, 栗原達男, 中平卓馬, 他1970 「座談会 機械とともに見る——『沈黙』と『現在』の思想」『美術手帖』, 1970年8月号: 81-97, 美術出版社。

刀根康尚, 中原佑介, 中平卓馬, 他1970 「風景をめぐる」『写真映像』, 6号: 118-134, 写真評論社。

刀根康尚, 菊畑茂久馬, 高松次郎, 他1971 「座談会 百花斉放・作家の目」『美術手帖』, 1971年12月号: 70-93, 美術出版社。

刀根康尚, 彦坂尚嘉, 赤塚行雄編1972 「アンソロジー・60年代美術の意識地平」『美術手帖』, 1972年1月号: 108-111, 美術出版社。

---. 1972 「年表・現代美術の50年 (1916 ~ 1968) 上」『美術手帖』1972年4月号: 1-125, 美術出版社。

---. 1972 「年表・現代美術の50年 (1916 ~ 1968) 下」『美術手帖』1972年5月号: 25-181, 美術出版社。

刀根康尚, 高島直之1985 「病状としてのポスト・モダニズム」『R』, 3号: 4-12, 現代デザイン研究所。

刀根康尚, 粉川哲夫1989 「Xデー下の日本語補習校」『Impaction』, 58号: 99-104, インパクト出版会。

---. 1991 「パラメディア・アートとは何か——テクノロジーを超える創造」『す

ぼる』13巻9号：176-196, 集英社。

---. 2002 「寄生するノイズ——「パラ＝メディア」の実践」『Inter Communication』  
39号：121-134, NTT出版。

---. 2011 「刀根康尚 ～メールインタビュー～」『ele-king』, 4号：120-125, メ  
ディア総合研究所。

刀根康尚, 桜本有三2001 「interview」藤井2001, 4-29。

刀根康尚, 大友良英2001 「音楽の外部へ」『図書新聞』, 2001年10月20日。

刀根康尚, 佐々木敦2006 「〈電子音楽の起源と突端〉刀根康尚」『Fader』, 11号：  
60-63, HEADZ。

刀根康尚, 由本みどり, 富井玲子 「刀根康尚オーラル・ヒストリー 2013年2月  
4日」『日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ』, 日本美術オーラル・  
ヒストリー・アーカイヴ, ウェブ。 [http://www.oralarthistory.org/archives/ton\\_e\\_yasunao/interview\\_01.php](http://www.oralarthistory.org/archives/ton_e_yasunao/interview_01.php) (最終閲覧日：2015年12月2日。)

---. 「刀根康尚オーラル・ヒストリー 2013年2月5日」『日本美術オーラル・ヒ  
ストリー・アーカイヴ』, 日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ, ウェブ。  
[http://www.oralarthistory.org/archives/ton\\_e\\_yasunao/interview\\_02.php](http://www.oralarthistory.org/archives/ton_e_yasunao/interview_02.php) (最終閲覧日：  
2015年12月2日。)

#### [英文]

Tone, Yasunao, and Yoshio Tsukio. 1967. "BIOGODE PROCESS." *ICA Bulletin*. No.171:  
12-13.

Tone, Yasunao, Florian Hecker, and Hans Ulrich Obrist. 2004. "Florian Hecker and Yasunao  
Tone interviewed by Hans Ulrich Obrist." *Palimpsest*. Edition Mego. MEGO 060, CD.  
Liner notes.

Tone, Yasunao, and Christian Marclay. Untitled interview. *Music*. No.1: 39-46. TAMAGO.  
Rpt. in "Record, CD, Analog, Digital." *Audio Culture: Readings in Modern Music*. Eds.  
Christoph Cox, and Daniel Warner, 341-347. A&C Black.

Tone, Yasunao, and Hans Ulrich Obrist. 2007. "Interview with Yasunao Tone by Hans Ulrich  
Obrist at Yokohama Triennale in August, 2001." in *Errant Bodies Press* 2007, 63-75.

Tone, Yasunao, and Jared Davis. 2008. "An interview with YASUNAO TONE." *un*  
*Magazine*. Vol. 2.2: 12-15. Un Project.

- Tone, Yasunao, and Miki Kaneda. 2013. "The "John Cage Shock" Is a Fiction! Interview with Tone Yasunao, 1." post, Web. [http://post.at.moma.org/content\\_items/178-the-john-cage-shock-is-a-fiction-interview-with-tone-yasunao-1](http://post.at.moma.org/content_items/178-the-john-cage-shock-is-a-fiction-interview-with-tone-yasunao-1). Accessed 2 Dec. 2015.
- . 2014. "Sound Is Merely a Result: Interview with Tone Yasunao, 2." post, Web. [http://post.at.moma.org/content\\_items/476-sound-is-merely-a-result-interview-with-tone-yasunao-2](http://post.at.moma.org/content_items/476-sound-is-merely-a-result-interview-with-tone-yasunao-2). Accessed 2 Dec. 2015.

#### 4. 二次文献リスト

以下に、刀根の音楽活動に関する二次文献リストを掲載する。

##### [和文]

- 赤瀬川原平 1984 『東京ミキサー計画 ハイレッド・センター直接行動の記録』, 19-28, 44-45, 188, PARCO出版。
- . 1994 「増嶋が割れる」『反芸術アンパン』, 182-205, ちくま文庫。
- 赤塚行雄 1965 「〈FLUX WEEK〉——ひとつの報告」『現代美術』, 7号: 56-58, サン・プロダクション。
- 秋山邦晴 1961 「〈グループ音楽〉作品発表会」『音楽芸術』, 19巻12号: 46-47, 音楽之友社。
- 足立智美 2001 「今なお前衛であり続ける前衛の歴史 刀根康尚について」『図書新聞』, 2001年1月13日。
- アラン・リクト 2010 『SOUND ART 音楽の向こう側, 耳と目の間』, 木幡和枝, 荻開津広, 西原尚訳, 134, 291-292, フィルムアート社。
- 飯村隆彦 2002 「アクション・パフォーマンスとしての8ミリ映画」『輝け60年代 草月アートセンターの全記録』, 「草月アートセンターの記録」刊行委員会編, 220-221, フィルムアート社。
- 石子順造 1971 「〈場〉の変質をめぐる」『美術手帖』1971年12月号: 57-63, 美術出版社。
- 市川雅 1972 「ハプニングの呪力に託す」『美術手帖』, 1972年8-9月号: 18-19, 美術出版社。
- 一柳慧 2002 「創造活動の拠点として」『輝け60年代 草月アートセンターの全記録』,

- 「草月アートセンターの記録」刊行委員会編, 164-165, フィルムアート社。
- 上野昂志 1971 『『近代』とはかくも自明なのか 刀根康尚『現代芸術の位相』』『美術手帖』, 1971年2月号: 196-197, 美術出版社。
- 飾屋新治 2001 「刀根康尚が放つ, 貫禄のデジタルノイズ」『HARPER'S BAZAAR』, 2巻12号: 212, エイチビー・ジャパン。
- 川崎弘二 2006 「日本の電子音楽主要作品」『日本の電子音楽』, 524-613, 愛育社。
- . 2015 「テクノロジー (とそのエラー) と電子音楽 刀根康尚とOVALのスキップ」『別冊ele-king ポストロック・バトルフィールド〜「以後」と「音響」の文化誌』, 松村正人編, 144-147, Pヴァイン。
- 川仁宏 1971 「無類のアソフイステイクション 微笑絶やさぬ刀根康尚」『美術手帖』, 1971年11月号: 19, 美術出版社。
- クリスティアナ・コート 2001 「刀根康尚の音楽について」藤井2001, 32-41。
- 小杉武久 2002 「パイクがピアノを壊した!」『輝け60年代 草月アートセンターの全記録』, 「草月アートセンターの記録」刊行委員会編, 159-161, フィルムアート社。
- 桜本有三 2001 『『きくこと』のさらなる冒険のために』『AAC』, 32号: 11-12, 愛知芸術文化センター企画事業実行委員会。
- 佐々木敦 2005 『『ノイズ』から『グリッチ』へ』『テクノ/ロジカル/音楽論 シュトックハウゼンから音響派まで』, 144-155, リットーミュージック。
- 塩見允枝子 2005 『『グループ・音楽』結成』『フルクサスとは何か 日常とアートを結びつけた人々』, 61-67, フィルムアート社。
- 白石美雪 2002 「横浜トリエンナーレを音楽中心に観る」『Inter Communication』, 39号: 152-153, NTT出版。
- 滝口修造 1962 「作品の危機と責任 読売アンデパンダン展から」『読売新聞』, 1962年3月16日, 夕刊。
- 竹田賢一 2001 「作曲家のための作曲家 塩谷宏と刀根康尚 アヴァンギャルドの触媒」『STUDIO VOICE』, 302号: 40-41, INFASパブリケーションズ。
- 谷川晃一 1985 「刀根康尚」『毒曜日ギャラリー』, 74-80, リプロポート。
- 中川克志 2011 「音楽家クリスチャン・マークレイ試論——ケージとの距離」『文学・芸術・文化』, 近畿大学文学部編, 22巻2号: 107-130, 近畿大学。
- . 2013 「はじめての現代音楽 刀根康尚《Solo for Wounded CD》(1997)」『春秋』

- 553号：頁無記載，春秋社。
- 中原佑介 1971「物質から〈空間〉へ 読売アンデパンダン展以後」『美術手帖』，  
1971年10月号：26-48，美術出版社。
- 榑崎洋子 2007『「グループ音楽」』『日本戦後音楽史 上 戦後から前衛の時代へ』，  
日本戦後音楽史研究会編，330-333，平凡社。
- 白南準，栗田勇，宗左近，一柳慧，高橋悠治，諸井誠 1963「世界の前衛と音楽」  
『音楽芸術』，21巻8号：38-47，音楽之友社。
- 畠中実 2002「サウンド・アートの新しい展開 世代を超えて交錯する、『音』を  
めぐるアート」『美術手帖』，2002年6月号：105-111，美術出版社。
- 羽永光利 1967「ゲリラ作家の鉤脈をさぐる」『美術手帖』，1967年11月号：110-  
117，美術出版社。
- 平田実 2005『超芸術 前衛芸術家たちの足跡1963-1969』，86-89，141，光陽メデ  
ィア。
- 藤井昭子編 2001『yasunao tone』愛知芸術文化センター企画事業実行委員会。
- 藤本由紀夫 2001「魅惑の実験音楽を再現」『中日新聞』，2001年1月13日，夕刊。
- 水野修孝 2002「ジョン・ケージがやっつてゐることは珍しくもなんともない」『輝け  
60年代 草月アートセンターの全記録』，「草月アートセンターの記録」刊行  
委員会編，162-163，フィルムアート社。
- 山田諭，光田由里 2013『ハイレッド・センター：「直接行動の軌跡」』[カタログ]，  
202，204-221，「ハイレッド・センター」展実行委員会。
- 山本淳夫 1998『「音の実験」と草月アートセンター」『草月とその時代 1945-  
1970』[カタログ]，芦屋市立美術博物館，千葉市美術館編，246-249，草月  
とその時代展実行委員会。
- 吉岡康弘 1966「あるエネルギー“音無しのかまえ”の演奏会」『宝石』，1966年9月  
号：63-68，光文社。
- ヨシダ・ヨシエ 1971「戦後前衛所縁の荒事十八番《VANコミュニケーション》の夢」『美  
術手帖』，1971年7月号：201-208，美術出版社。
- (無記名) 1965「一音楽— 刀根康尚氏 (30才)」『女性自身』，1965年11月1日号：  
頁無記載，光文社。
- (無記名) 1967「電子計算機による多体系の実験 バイオゴード・プロセス発  
表会より」『インテリア JAPAN INTERIOR DESIGN』，47号：9，ピスタ。

(無記名) 1968 「日本初のコンピューターアート・コンテスト開く」『美術手帖』,  
1968年5月号: 46-47, 美術出版社。

(無記名) 2001 「横浜トリエンナーレへの参加も決定したアメリカ在住前衛音  
楽家・刀根康尚がやってくる。」『美術手帖』, 2001年1月号: 167, 美術出版社。

(無記名) 2001 「音と言葉の寄生する通行路」『美術手帖』, 2001年11月号: 134,  
美術出版社。

(無記名) 2001 「刀根康尚 Man'yo #36-37 /1065010 Zero Crossings [extended mix]」  
『TN Probe vol.9: MUTATIONS』 [カタログ], 167, TNプローブ。

### [英文]

Ashley, Robert. 1993. "Musica Iconologos." *Musica Iconologos*. Yasunao Tone. Lovely Music.  
LCD 3041, CD. Liner notes. Rpt. in "Album Notes." Lovely Music, Web. <http://www.lovely.com/albumnotes/notes3041.html>. Accessed 2 Dec. 2015.

Cisneros, Roc Jiménez de. 2009. "Blackout: Representation, transformation and de-control  
in the sound work of Yasunao Tone." *Ràdio Web MACBA*, Web. <http://www.macba.cat/en/quaderns-portatils-roc-jimenez>. Accessed 2 Dec. 2015.

Dekleva, Dasha. 2007. "In Parallel." In *Errant Bodies Press 2007*, 39-54.

Errant Bodies Press. Ed. 2007. *Critical Ear series Vol. 4 Yasunao Tone - Noise Media Language*.  
Errant Bodies Press. Rpt. in "Yasunao Tone - Noise Media Language." Errant Bodies,  
Web. [http://www.errantbodies.org/Yasunao\\_Tone.html](http://www.errantbodies.org/Yasunao_Tone.html). Accessed 2 Dec. 2015.

Kaneda, Miki. 2014. "Graphic Scores: Tokyo, 1962." *post*, Web. [http://post.at.moma.org/content\\_items/452-graphic-scores-tokyo-1962](http://post.at.moma.org/content_items/452-graphic-scores-tokyo-1962). Accessed 2 Dec. 2015.

Kelly, Caleb. 2007. "Technology/Noise." *Tomii 2007*, 170.

---. 2009. "Yasunao Tone's Wounded Compact Discs: From Improvisation and Indeterminate  
Composition to Glitching CDs." *Cracked Media: The Sound of Malfunction*, 227-244.  
MIT Press.

Stuart (=Kelly), Caleb. 2002. "Yasunao Tone's Wounded and Skipping Compact Discs: From  
Improvisation and Indeterminate Composition to Glitching CDs." *Leonardo Electronic  
Almanac*. Vo.10, No.9. Web. <http://www.leoalmanac.org/leonardo-electronic-almanac-volume-10-no-9-september-2002/>. Accessed 2 Dec. 2015.

---. 2003. "Damaged Sound: Glitching and Skipping Compact Discs in the Audio of Yasunao

- Tone, Nicolas Collins and Oval." *Leonardo Music Journal*. Vol.13: 47-52.
- Kendall, Craig. 1993. "Technical Notes." *Musica Iconologos*. Yasunao Tone. Lovely Music. LCD 3041, CD. Liner notes. Rpt. in "Album Notes." Lovely Music, Web. <http://www.lovely.com/albumnotes/notes3041.html>. Accessed 2 Dec. 2015.
- LaBelle, Brandon. 2006. *Background Noise: Perspectives on Sound Art*, 35-45, 218-228. Continuum International Publishing Group.
- Marotti, William. 2007. "Sounding the Everyday: the Music group and Yasunao Tone's early work." *Errant Bodies Press* 2007, 13-33.
- . 2013 "Reoutes to the Yomiuri Anpan II: Tone Yasunao, Kosugi Takehisa, and the Music Group." In *Money, Trains, and Guillotines*, 177-189. Duke University Press.
- Marulanda, Federico. 2007. "From Logogram to Noise." *Errant Bodies Press* 2007, 79-92.
- Myatt, Tony. 2013. "Convulsive Threshold." *Convulsive Threshold*. Yasunao Tone and Russell Haswell. Edition Mego. EMEGO 142, CD. Liner notes.
- Myatt, Tony. Thom Blake, Mark Fell, and Peter Worth. 2010. "Yasunao Tone And MP3 Deviation." *Proceedings of the International Computer Music Conference*. Vol. 2010: 234-237, Web. <http://hdl.handle.net/2027/spo.bbp2372.2010.046>. Accessed 2 Dec. 2015.
- Munroe, Alexandra. 1994. "A Box of Smile: Tokyo Fluxus, Conceptual Art, and the School of Metaphysics." In *Japanese Art After 1945: Scream Against The Sky*, ed. Alexandra Munroe, 215-223. H.N. Abrams.
- Ross, Julian. 2013. "Circle the Square: Film Performances by Iimura Takahiko in the 1960s." post, Web. [http://post.at.moma.org/content\\_items/290-circle-the-square-film-performances-by-iimura-takahiko-in-the-1960s](http://post.at.moma.org/content_items/290-circle-the-square-film-performances-by-iimura-takahiko-in-the-1960s). Accessed 2 Dec. 2015.
- Strauss, Neil. 1995. "Sounds Around Town." *The New York Times*. 5 May. 1995. Rpt in *The New York Times*. The New York Times Company, Web. <http://www.nytimes.com/1995/05/05/arts/sounds-around-town-025995.html>. Accessed 2 Dec. 2015.
- Tomii, Reiko, ed. 2007. *Making a Home Japanese Contemporary Artists in New York*. Japan Society Gallery.
- . 2007. "Border-Crossings A Preface to the Exhibition." Tomii 2007, 18.
- Wollscheid, Achim. 2007. "Around point zero - Introduction." *Errant Bodies Press* 2007, 5-6.

No	年	作品タイトル
1	1960	オートマティズム Automatism ※「グループ・音楽」の作品
2	1960	オブジェ Objet ※「グループ・音楽」の作品。「これがオブジェだ」, "This is Objet!", "Object" の表記あり
3	1961	メタプラズム九 一五 Metaplasm9-15 ※「グループ・音楽」の作品
4	1961	磁性テープによるピアノの音響 イ Piano Sound with Magnetic Tape #1 for a pianist with head-phone
5	1961	磁性テープによるピアノの音響 ロ Number and with Tape Music #2 for a piano and 5 pianists
6	1961	磁性テープによるピアノの音響 ハ Piano Sound with Magnetic Tape #3, Days
7	1962	Drastic for Jazz percussionist
8	1962	Silly Symphony
9	1962	足踏みオルガンのための音楽 Music for Footpedal Organ ※ "Music for Reed Organ" の表記あり
10	1962	弦楽器のためのアナグラム Anagram for Strings
11	1962	ミュージックコンクレートのためのアナグラム
12	1962	Conversation
13	1962	磁気テープによる器楽的音響ドアー Door
14	1962	Costume
15	1962	Ki, rebellion
16	1962	Waranin
17	1962	テープレコーダー Tape Recorder
18	1962	Music for Saxophone player with Head-phone
19	1962	あらゆる絵画のための音楽 Music for Every Painting in the World ※ "Music for Every Tableaux", "Music for a Painting" の表記あり
20	1962	Spot light event
21	1962	ピアノのための地形学 Geodesy for a piano
22	1962	※映画「いろ」（監督：飯村隆彦）の音楽
23	1963	※明治製菓「カルミン」テレビCMの音楽
24	1963	サムシング・ハプンド Something Happened
25	1963	Dictionary Music

No	年	作品タイトル
26	1963	君が代 Kimigayo Electronics ※「十一の君が代」の表記あり
27	1963	クラッピング・ピース Clapping Piece
28	1963	スムーズ・イベント Smooth Event
29	1963	DADA'62 ※ "Music for Every Film" の表記あり, 飯村隆彦との共作
30	1963	Music for String #2
31	1963	Tonework
32	1963	Solo for Several Composers
33	1963	Monotone
34	1963	Solo, a music for abacus
35	1963	Criterion
36	1963	Ministars
37	1963	Music for Portable Radios
38	1963	※映画「ONAN」（監督：飯村隆彦）の音楽
39	1964	Music for Several Composers
40	1964	Screening Event, or a Concurrence Event
41	1964	Tale of Purple Garden
42	1964	2880k-120"
43	1965	Volkswagen Music
44	1965	READY MADE の禁止 Ready-made Prohibition
45	1966	Catch Water
46	1966	A Radio event #2
47	1966	シアターピース Theater Piece for Computer
48	1966	Signal
49	1966	Pull Event
50	1967	Sound-insertion happening ※映画「ホップスコッチ」（監督：金坂健二）の音楽
51	1967	Music for Gingakei (Galaxy) ※映画「銀河系」（監督：足立正生）の音楽
52	1968	金幣猿鳴群 Kin no Sai Sarushimadairi
53	1968	Yukoku
54	1969	テレビは目で噛むチューインガムである TV is a chewing gum for eyes
55	1972	A Second Music -- broadcasting version

No	年	作品タイトル
56	1973	One day Wittgenstein...
57	1973	Music for Passengers while Trains Pass Each Other (counter-Doppler piece)
58	1974	Communication with Mr. Ψ
59	1974	Clockwork Video
60	1975	Harpiscord for 50 fingers
61	1975	Geodesy for Harpsichord
62	1975	Lenticular Poem
63	1975	Theatreum Philosophicum for Video and Conversation
64	1976	Voice and Phenomenon
65	1977	Voice and Phenomena
66	1978	Music, Genealogy for voice, ice and wind
67	1978	シナの動物 Fauna of China
68	1979	地理と音楽 Geography and Music for Amplified String Music and Text
69	1979	Floating Sotoba
70	1980	The Wall and the books
71	1982	モレキュラー・ミュージック Molecular Music
72	1983	Molecular Music #2
73	1983	Book of Calendar
74	1984	Piano for Taoists
75	1985	Caught in the Fringe
76	1985	Trio for a flute player
77	1986	Tanka issyu
78	1986	Music for "Techno Eden"
79	1986	2 台の CD プレイヤーのための音楽 Music for 2 CD players
80	1987	Aletheia
81	1988	フルートのためのリリクトロン Lyrictron for a flute
82	1989	Music for CD players #3
83	1990	What is left from Rembrandt...
84	1990	Setsubun, Day of Change
85	1990	ミュージック・アンド・ゼン Zen and Music
86	1990	パラメディア・ミュージック Paramedia Music

No	年	作品タイトル
87	1991	Paramedia Mix
88	1992	Musica Iconogolos
89	1995	Solo for Wounded CD ※ Live バージョン
90	1995	Intermezzo for Mixology
91	1995	Paramedia Mix #3
92	1997	Solo for Wounded CD ※ CD リリース
93	1998	A Seminar on the Purloined Letter
94	1998	Blue Bird remix by Yasunao Tone ※原作者: Judy Dunaway
95	1999	(jō)HN
96	2000	a/s toned Hecker remix by Yasunao Tone ※原作者: Florian Hecker
97	2000	Wounded Man'yo
98	2000	Piano Sound with Magnetic Tape #1 for a pianist with head-phone
99	2000	Number and with Tape Music #2 for a piano and 5 pianists
100	2001	Man'yo #36~37 /1065010 Zero Crossings [extended mix]
101	2001	Fill Event
102	2001	寄生ノイズ Parasite/Noise
103	2003	We insist
104	2004	Palimpsest ※ Florian Hecker との共作
105	2004	Imperfection Theorem of Silence
106	2005	Paramedia Centripetal
107	2005	Events ※ Christian Marclay, Christian Wolff との共作
108	2007	495.63
109	2007	GGGong
110	2007	Silent Staircase
111	2011	Musica Simuracla
112	2011	MP3 Deviations
113	2013	Convulsive Threshold ※ Russell Haswell との共作
114	2012	3-Part In(ter)ventions ※大友良英, Jim O'Rourke との共作
115	2015	Double Automatism ※ Talibam!, Sam Kulik との共作

表 1 刀根康尚作品一覧

## 5. 作品リスト

表1に、刀根の作品一覧のリストを掲載する。

「No」は、年代順に並べた際に筆者が付与した作品番号である。「作品タイトル」の英語表記は、藤井2001に従った。一次文献において日本語が記述されている場合は併記した。一次文献（本人の著述・発言）において作品タイトルが複数ある場合は、「※」印の後に複数記載した。また、本人による正式タイトルが決まっていない場合や、原作者が別である場合も、「※」印の後に追加情報を記載した。（表1：刀根康尚作品一覧）

## 6. まとめ

本研究ノートに掲載した文献のリストは日本語のものが中心となった。英語圏の文献はある程度収集できたものの、まだ不足が多数ある。また日本語の文献についても、データベースに記載されていない雑誌については調査に限界があり、全てを網羅できていない。また、刀根が出演しているイベント、テレビ、ニュース映画、記録映像については、少し情報を得たが、不明瞭な情報も多かったので記載を行わなかった。

それでも、これまで作成されてきた刀根の作品・文献表の中で最も情報量が多く、精度も高いため、十分に意義があると思われる。これらのリストは筆者の刀根康尚の研究において役立つ目的で作成したが、日本の実験音楽や電子音楽に関連する今後の研究においても有益な情報源となることを期待したい。

最後に、調査にあたって情報提供等で御協力を頂いた刀根康尚氏、慶応義塾大学アート・センターの上崎千氏、愛知県芸術劇場の藤井昭子氏、情報科学芸術大学院大学の松井茂氏、SETENVの井上亮氏、Jared Davis氏、Roc Jiménez de Cisneros氏にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

---

註

1. 1960年代に結成された、赤瀬川原平、高松次郎、中西夏之の3名が中心の美術家グループ。刀根は小杉武久とともに、ハイレッド・センターが主催するイベント等で即興演奏や作品を発表することが多かった。刀根は「顧問」という肩書でハイレッド・センターの名刺を作成され渡されていた。
2. 藤井2001には、かなり網羅されてた2000年までの作品リストが掲載されている（ただし、英名のみ）。またErrant Bodies 2007には、刀根が参加したイベント、CDに加えて一次文献、二次文献などの情報も記載されているが、網羅的ではない。

(都市イノベーション学府博士前期課程・建築都市文化専攻)